

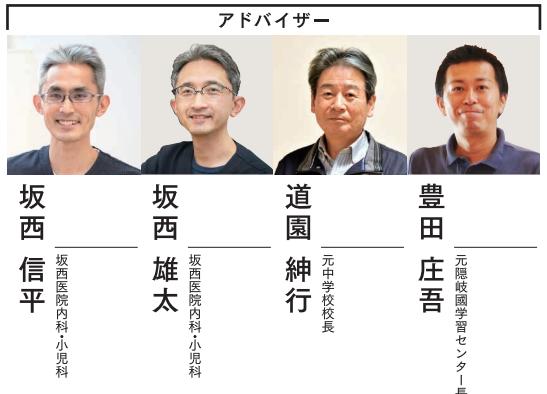
POSTSCRIPT

活動を始めて7年が経過しましたが、振り返ると色々なことに取り組んできたのだと感じます。ただ、一貫していることは、子ども若者は可能性であるという視点や、一人一人ができる事を考え、みんなで取り組むということ。そして、こうした価値を実現するための誰にとっても安全で安心できる居場所をつくるためには「対話」が不可欠であること。このことは7年前も今も変わらないように思えます。様々な取り組みの中で、繰り返し大切だと感じ、方々に発信してきた価値が、少しずつまちの中に拡がり始めています。これまでの一つ一つの積み重ねが、令和6年度以降の新たなステップにつながっているように感じます。それは私たちのビジョンでもある、私たちのまちに対話文化が拡がっていく、というものです。最後に、この活動に関わっていただいている一人一人の行動が、新たな子ども若者や仲間との出会いにつながり、領域を超えた豊かなまちへと着実な歩みとなっていることに感謝申し上げます。

MEMBERS



菅原 知之 代表理事
医療法人CLSすがはら
坂口 明夫 理事
社会福祉法人甘木山学園
高口 恵美 理事
福岡県教育委員会
西南女学院大学非常勤講師



2023年度 収支報告

収入の部		
	助成金収入	¥4,878,359
寄付金収入		¥554,000
合計	¥5,432,359	
支出の部		
	人件費	¥3,099,409
	事業運営費	¥2,373,375
事業委託費		¥132,000
合計	¥5,604,784	

子どもが未来に橋をかける。

OMUTA BRIDGE
<https://www.omutabridge.org/>

賛助会員募集

参加方法

参加用紙に必要事項を
ご記載ください
振込用紙をお渡しします

対象者

本団体の運営活動に対し
ご理解とご支援をいただける
個人および団体

会費

3,000円/年
(5月引き落とし)

学生会員

会費は徴収しませんが、団体活動運営に係る実務を一部担います

一般会員

本団体運営に係る実務を担います

賛助会員

本団体運営活動に対するご理解、ご支援、一部協力をいただける個人及び団体

お問合せ

OMUTA BRIDGE 事務局

〒836-0036 福岡県大牟田市小川町30番地1
E-mail:info@omutabridge.org

協力団体 子ども家庭支援センター あまぎやま



OMUTA BRIDGE

ANNUAL REPORT
2023

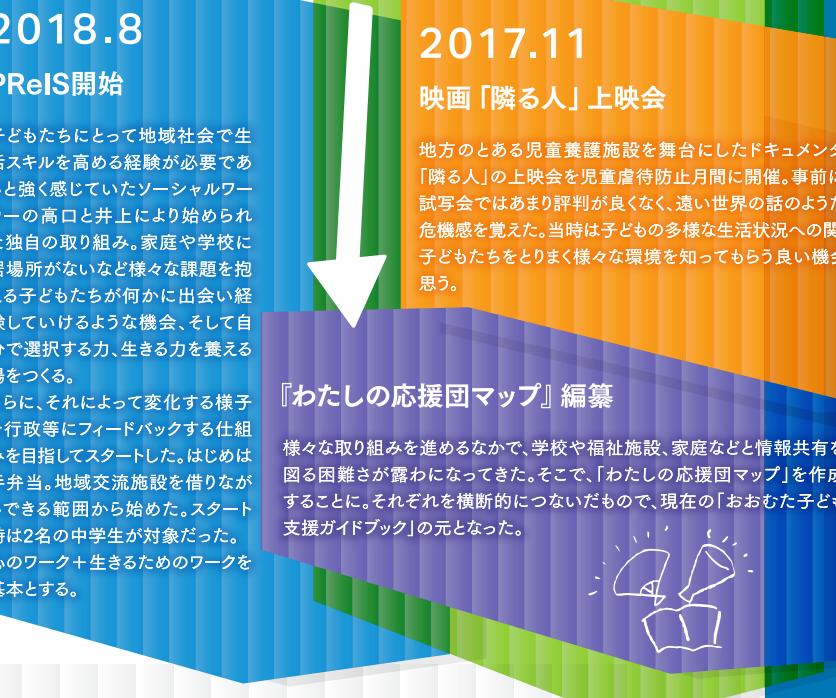
OMUTA BRIDGE STORY

日々感じていた孤立する子どもや家庭に対しての課題感。そして地域で医療、福祉に関わる人間としての想い。
そのようななかで映画「みんなの学校」に感銘を受け、大牟田でも上映会をやりたいとの気持ちが高まった活動前夜。
地域で児童福祉に関わる識者たちと議論を重ね、「誤解なく地域の現状を知ってもらう必要がある」との意識から
上映会をきっかけとしたOMUTA BRIDGEの歩みが始まりました。



子どもたちの多様性や可能性を認め、出会い、結びつことで夢や希望が育まれるまちづくりを宣言。上映会を活動のスタートと位置付け、自主勉強会を主体とした「ないいろりボン定例会」を続ける。

子ども支援に関わる多様な人がつながることができるプラットフォームを作りたいという願いから「ないいろりボン学習会」という形へ移行。各回のテーマごとに相応しいゲストを迎えるなど、これが現在の基本的な学習会の形となった。

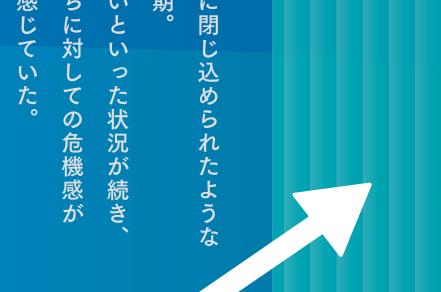


2020.1~ 新型コロナウイルス 感染拡大

まるで閉鎖された空間に閉じ込められたよう息苦しさが蔓延した時期。
人と会えない、話せないといった状況が続き、多くの家庭や子どもたちに対しての危機感が高まっているのを感じていた。

2020.5 オンライン ワークショップ開始

コロナ禍には前代未聞の休校措置がとられた。何とか一人でも多くの子どもたちとつながることができないかという想いから、オンラインでのワークショップを実施。料理、デザイン、マナー、ものづくりなど、様々なテーマを扱った。



2021.4 一般社団法人 OMUTA BRIDGE 設立

様々な活動に取り組み出会いを重ねるなかで、より具体的に「対話のまち」を目指して、学びや実践を繰り返しながら社会に働きかけを行っていくという覚悟のもとに法人化を決定。そしてできた学びの積み木、「ワークショップ」「PReIS」「オンライン寺子屋」そして新事業として計画していた「おおむた子どもまちづくり会社(仮)」。

これを整理、アクセスできる場としてウェブサイトを開設した。



2020.10 オンライン寺子屋開始

ふらりと立ち寄れるオンライン上の居場所として始動。ソーシャルワーカーなどの専門職と大学生サポーターがペアで対応し、「いつもの曜日、いつもの時間、いつもの人」をテーマにオンライン上に居場所がつくれるかどうか試行した。この取り組みが仲間を大きく増やすきっかけに。オンラインでの参加が可能になり、遠方の大学生の参加や夜間の参加にも対応できるようになったことで、関わり口が増えた。



子どもたちが主体的に生きるための「学びの積み木」をベースに、自分を知り、思いにふれて、関わったりつながったりした先に、表現したり評価してもらおう、認めてもらうといったステージが必要だと考え、「おおむた子どもまちづくり会社(仮)」として計画していた事業を「ジュニアシティメーカー」として正式に発足させた。大人と子どもが混じり合いながら多様な対話の場を育んでいきたいという願いを実装できる場の選定を進めるなかで、コロナ禍の学校においてキャリア教育の機会(職場体験学習)が失われていることを知る。相談を続けるなかで、学校と地域による学びの場の共創の必要性から、OMUTA BRIDGEとしての役割を見出し、その舞台を「学校」として地域の人々に関わりをもたせながら開始することにした。この取り組みは子どもたちや先生方はもちろん、地域住民、私たちの変化にもつながり、以降現在まで続く取り組みとなっている。

2024.2 サテライトスペースばずてる始動

コロナ禍がきっかけで生まれた「つながり方」の選択肢「オンライン寺子屋」。つながるのに便利な一方で直接的なつながりを必要とする子どもたちの存在も。また、PReISを続けていくなかにおいても、いわゆる「特別な場」ではない、ふらりと立ち寄ることのできる場の必要性を感じていた。そこで、地域の公民館で定期的に子どもたちが立ち寄ができる場「ばずてる」を立ち上げることになった。これは現在、教育委員会との共催事業となっており、まちとの連携を強める事業の一つとなっている。

計画の段階から若手2名を運営の主体として関わってもらっている。非常に丁寧に進めてくれており、将来への可能性を高く感じている。



現在 ぶんぶんカンパニー

取り組みの先にあるビジョンと自分たちの持リソースとの乖離の問題は以前から感じている。持続的、発展的な活動のためにOMUTA BRIDGEとして何ができるのかを考えたとき、思い至った考え方を形にしたもののが「ぶんぶんカンパニー」だ。様々な場所が子どもたちにとって安全な場所になり、関わる人たちが対話的な関係になっていけば一番良いのではないかという考えのもとに生まれた。

学びの場で対話のファシリテートを学んだ人が新たな場で実践をしてみたり、現場で対話の価値に触れた人が再び学びの場に帰って来るよう。また、実践の場で培った経験が集いの場で共有され新たな手法を見つけることで実践の場で生かされるようなグルグルと回る循環の形だ。

まるでミツバチのように様々な場所で情報や経験といった価値(花粉)を得ながらそれを共有し結びつけながら新たな価値を生み出していくようなモデル。それが場や人の関わり方の変容を招き、子どもたちの多様性や可能性を認め、夢や希望が育まれるまちへとつなぐことができる道ではないか。現在、新たなOMUTA BRIDGEの事業モデルとしての検討を続けている。



(今年度の新しい取り組み)

オンライン寺子屋 ばすてる

OFFLINE TERAKOYA
"PASTEL"

地域の誰もが集まる公民館に、
ふらりと立ち寄り過ごせる安全な場所をつくりました。
誰かとお話ししたり、一人でゆっくりと過ごしたり。
参加メンバーといつも滞在しているソーシャルワーカーとで
その日の活動をつくりっています。

実績
2023年度の

2024.2月12日
2月19日
2月26日
3月11日
3月18日
3月25日

実施

毎週月曜日(第1月曜と祝日を除く)

対象

大牟田市内の小学生～中学生

場所

大牟田市中央地区公民館
2F「創作室」

時間

14:00～18:00

STAFF

松本
愛美



STAFF

杉本
龍司



私は人見知りだけど色んな人と話すことは大好き。そして緊張がとけるとあっさりとした性格です。食べること、寝ることが大好きです！
ばすてるは学校や学年など関係なく、みんなで一つの輪をつくって団欒する場所。時には一人や二人、たまにはみんなで。一人一人それぞれの過ごし方を見つけていく、そんな場所。来たい時に来て、帰りたい時に帰る。みんなにとって学校やまた次のステップに進むための心と体を整えるための居場所に、またきつい時には振り返るための場所、色々な過ごしができる場所でありますように。と願って毎日子どもたちと関わっています。

去年大学を卒業し、ソーシャルワーカー2年目に入りました、杉本です。熊本から初めての大牟田で、ときどきわくわくのなかこの1年間を過ごしました。休みの日は、テレビ番組のバラエティを見たり、ゲームを朝までしたりすることもあります…勉強は苦手です(笑)。ばすてるは一言で言うと「のんびり」です。学年も校区も違う子たちが、遊びや作業を用いて対話をしたり、一人で黙々と作業をしたりと各自がしたいことをしていくけれど、それが心地の良い雰囲気になって、みんな楽しく活動ができ、今の居場所となっています。今後はばすてるをもっと認知させていき、「来てみようかな!」と思ってくださる子たちに、ばすてるという居場所を届けていけたらいいなと思っています。

4月号

第2・3・4月曜日の
14時～18時
中央地区公民館
創作室にて!!

おやそく
校区内の小学生は保護者の
方の送迎でさとね。

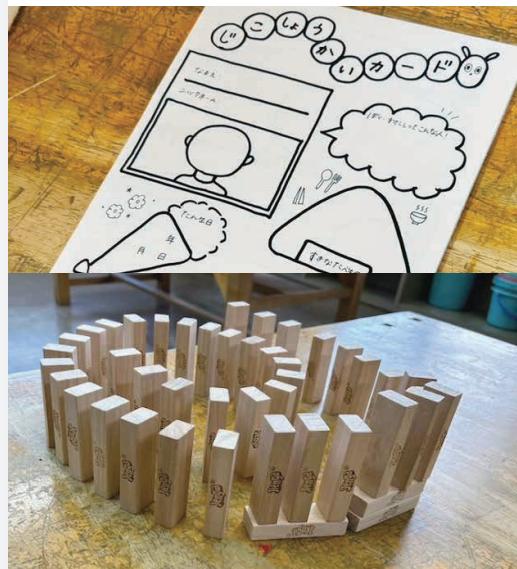
[問い合わせ]
一般社団法人 OMUTA BRIDGE
info@omutabridge.org

進級
進学 おめでとうございます!



小学校1年生から
中学校3年生みんな来ていいよ!!
スクールソーシャルワーカーの
杉本龍司さん(たくまゆき)
松本愛実さん(みやのめい)
の2人もいるから会いに来てね!!

4月は
8日、15日
22日
に待ってるよー!!



実績 2023年度の なないろりボン学習会

2月18日
4月26日
6月24日
8月30日
11月30日
12月10日
2024.2月20日

(子どもたちを支援する人のプラットホーム)

なないろりボン 学習会

NANAIRO-RIBON
STUDY GROUP

なないろりボン学習会は、子どもたちを取り巻く社会課題への理解を深め、
立場や役割、領域を超えてつながり、知恵や工夫を出し合うことで、
一人一人が自分に何ができるのか考える場所です。
新たな協働や取り組みが生まれています。
そんなまちを目指します。

参加方法

- 団体Facebookおよび
公式LINEにて情報発信しています。
リーフレットのQRコードより
参加申し込みの上、ご参加ください。



参加の状況

毎回15名前後の参加者

大牟田市市民活動等多目的交流施設
えるる



話題提供者とのお話を聞いて感じたこと、自分のココロの動きとゆっくりのんびり向き合う時間。その中で思い浮かんだ気持ちやアイデアをみんなと話ながら、さらに思いは深まり広がって、いつも話が尽きません(笑)。学習会終了後は来たときよりも元気になって帰って行かれる姿に、お一人お一人の、そしてまちの力を感じます。多様な情報に触れながら、子どもたちの未来を想像しまちを創造する時間です。

参加したTさんの感想

最初に学習会に行こうと思ったきっかけは、コミュニティスクールに関心があったので、話題提供者である松尾さんの生の声を聞いてみたいと思ったからでした。自身の子どものことというよりも、地域のこれからの教育を考えて参加したように思います。行ってみると話すことで生まれるものがあるのだと感じました。いきなり発表するとかではなく、隣に座っている数人の方と話をすると、その方の素の話を聞くことで自分と相手の違いに気付いたり、他の方がどんな想いなのかに触れたりすることができました。そうなっていくのは、ここに来ている方たちはきっと同じ想いでいるのだという安心感からなのだと感じます。あの場で出会ったことがきっかけで、一緒に話を共有できる仲間が増えました。改めて、風通しの良い、人の意見が否定されることのないそんな場だと感じています。



参加を呼びかける フレイバー(一部)

対話で深める 子どもの権利/ 子どもアドボカシー ってなあに?

子どもの権利、人権の尊重について改めて考える時間です。子どもの想いは一つとして同じものではありません。わたしたちはどのように子ども達の想いと向合っていくのでしょうか。今回はそのような視点で

- ☆ 子どもの声を聞く「視点」や「姿勢」について考える
- ☆ グループワークによる「対話」を通して気づきを共有する

そんな時間を過ごせたらと考えています。

話題提供 高口 恵美

日 時 程: 2023年 4月 26日 (水)
時間: 18時30分～(90分程度)

場 所: えるる 小会議室

申込方法: 右のQRコードよりお申込みをお願いします

お問い合わせは下記メールアドレスより
info@omutabridge.org



なないろりボン学習会 子どもの「**非認知能力**」 を高める関わりについて考える!

子ども達がこれまでの時代を生きていく上で大切なと言わわれている「非認知能力」。
それってどんな力なんだろ?
わたしたちはどんな環境を作っていくのだろう。

話題提供者: 高口 恵美

なないろりボン学習会とは
子ども達の声が大切にされる
「まち」について考える
大人達の集いの場です

2023. 11. 30 (木)

18時30分 スタート

場所: えるる (料理室)

お問い合わせ先 OMUTA BRIDGE

お問い合わせ先: info@omutabridge.org

お申込みは こちらの QRコードから

QRコード

なないろりボン学習会 PRELIS の活動



PRELIS

子ども達の「生きる力」を高めることを目的に、実施している子どものためのワークショップ。月に1回、大牟田市内のいろいろところで開催しています。

子ども達の様子や、取り組んでいる内容、

わたしたちの想いをお話しします。

スクールソーシャルワーカー

P R E L I S 代表

OMUTABRIDGE理事

話題提供: 井上ゆき × 高口めぐみ

場所: えるる(調理室)
(大牟田市新栄町6-1)
開催日: 2022年10月14日(金)
時間: 18:30～20:00
参加費: 無 料

お申込みは下記QRコードより
またはメールにて
・名前
・メールアドレス
(予定変更時のお詫びのため)
の記入をお願いいたします

参加対象者: 大人
地域の人
子ども支援に関わる人
子ども支援に興味のある人
どなたも大歓迎!

主催: 一般社団法人OMUTABRIDGE

なないろりボン学習会
考え込む大人呪いを解くカギ
～ジュニアシティメーカー活動を通して～
話題提供: 江崎文寿 × 菅原知之

日程: 2023年 6月 24日 (土)
時間: 14:00～15:30
場所: えるる 小会議室

子どもの声が
大切にされる「まち」
について考える
大人達の
集いの場

子どものために、何か自分に出来ることないかな?
「ジュニアシティメーカー(JCM)」って聞くところなど聞いてるの?

OMUTA BRIDGE
お問い合わせは下記メールアドレスへ
info@omutabridge.org

申込方法:
下のQRコードよりお申込みをお願いします

申込方法: 下のQRコードよりお申込みをお願いします

QRコード

なないろりボン学習会
「オムタブリッジ」
字びと対話と繋がりの場

なないろりボン学習会
テーマ「オンライン寺子屋」

平日の夜に開催されている
オンライン上の「居場所」!
オンラインで子ども達の居場所は作れるのか?!!
岩田格嗣氏 × 横尾愛氏
(北九州市立大学) (須恵町JWU)

12月10日 14:00 開始
(全90分)
場所: 菅原病院内@てくてのたまご3階
お申込みは こちらの QRコードから
QRコード

問い合わせ先
info@omutabridge.org



学びと対話と繋がりの場

なないろりボン学習会

子どもの声を聴く

講師: 元PRELISメンバー(18歳)
あの頃(小学生時代のこと)。
今、考えていること、やってみたいこと。
またなや地域に期待すること。

2023年2月18日(土) 14:00～15:30

場所: 大牟田市市民活動交流施設
「えるる」創作室
住所: 大牟田市新栄町6番地1

右のQRコードをよみこんでいただき
お申込みをお願いいたします。
※参加費無料

OMUTA BRIDGE

問い合わせ先: info@omutabridge.org

OMUTA BRIDGE

なないろりボン学習会
みんなで考える
こみゆにていすくーる
8月30日(水)
18時30分スタート
場所: えるる(小会議室)

話題提供者
松尾悦男先生
学校・保護者・地域が知恵を出し
合い、協働しながら子ども達の豊
かな成長を支えることを目的とし
ているコミュニティスクール。
大牟田ではどんな実践が行われて
いるのかお聞きしながら、なにが
できるかな?どんな可能性がある
かな?みんなで考える時間です。

お問い合わせ方法
下記QRコードより
お申込みをお願いします

QRコード

なないろりボン学習会
大牟田市
子ども・子育て応援条例

「大牟田市子ども子育て応援条例」が誕生したのをご
存じでしょうか?条例が出来たら何が変わるのが、わ
たしたちは何ができるのか。条例について理解を深め
つつ、あれこれみんなでお話ししましょう。

話題提供者
子ども未来室: 室長 原 美佳氏
子ども育成課: 主査 永井孝典氏

開催日時
2024年2月20日(火)18:30～20:00

場所
大牟田市市民活動等多目的交流施設
「えるる」小会議室

こちらのQRコードより
お申込みください

問い合わせ先
info@omutabridge.org

OMUTA BRIDGE

8月28日
～
9月22日

(子どもたちの想いや考えを発信するプログラム)



JUNIOR CITY MAKER

子どもたちが地域の大人と
対話しながら地元の文化に触れながら
自身の想いと向き合い、商品開発や販売活動を通して、
自分たちの想いを具現化し、
自ら考え方選択し取り組む力を育みます。
得ながら実施しました。

本年度も大牟田市立橋中学校の2年生を中心に、
地元企業や行政、専門職、
デザイナーなど多様な協力を
得ながら実施しました。

学校との連携が力・ギ

今期のジュニアシティメーカーでも先生方の存在が
大きく取り組みに影響を与えたように思います。特殊
な環境にある上に、安定さを欠かざるを得ないタイミングでの取り組みの打診に、現場の先生方は戸惑われたことだと思います。そんな中、学年主任の中野先生を中心、本取り組みの意義をキャリア教育の考え方や閉校へ進んでいく校舎への想いを通じて共有し、それを広く先生方の共通のビジョンと化すことができたことは非常に大きな力になりました。課題やアイデアに対しポジティブに関わっていただいたほか、グループワークにおいても、それぞれのクラスで先生方それぞれの生徒たちへのコミュニケーションを感じることができ、生徒たちが安心して積極的になることができる空気を醸成していただけたと確信しています。

対象 大牟田市立橋中学校 2年生

2025年の近隣3校統合に向け、閉校の準備が進む大牟田市立橋中学校。運営メンバーが何うと、運動場をはじめ校舎の中で日常的に使用していた場所が使えなくなり、工事の音が響く中で日々の学びや安心して過ごせる場所が限定されていました。図書室もない、相談室もない、移動教室もなく、運動場も使えないといった、生徒たちが帰属できる拠点への危機感。あと1年でそういう状況の学校を卒業していく生徒たちに対しての先生方の想いに共感し、生まれたJCMのテーマは「タマリバをつくろう！」でした。

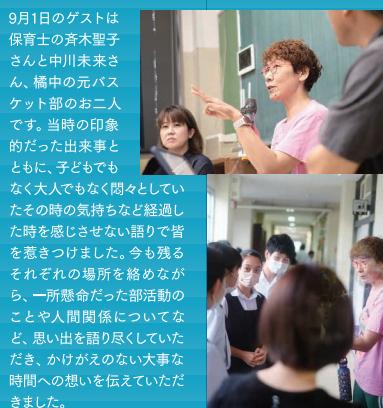


改めて今学んでいる学校がどんな場所なのか、どんな人が関わっているのか、その中にいる自分たちがどんな存在なのかを知り、名前や形が変わっていく母校の姿を背景に、生徒たちが必要としている希望が持てる居場所を考え、示していくことに。そのために、地域で活動され

ている卒業生を招き、当時過ごした思い出や居場所のこと、人とのつながり、生き方など、希望の居場所を考えるヒントとなるようなお話をそれぞれの切り口で語っていただきました。



8月28日、学年担当の中野先生に、JCMの取り組みを組み込んだ今回の総合学習の狙いやその想い、全体のあらましを伝えていただいた後、ゲストティーチャーとして招いた過去に橋中で教鞭を取られていた教育委員会の杉野浩二さんにお話を伺いました。杉野さんは、歴史とは何であるのかという問から、「繋ぐ」という言葉をキーワードに空間と時間と人がどのようにつながり紡がれてゆくのかとの想いを語られ、閉校に際して今しかできないこと、君たちはそれを成していく主人公なんだと問うていただきました。



9月1日のゲストは保育士の斎木聖子さんと中川未来さんと橋中の元バスケット部のお二人です。当時の印象的な出来事とともに、子どもでもなく大人でもなく大人でもなく間々としていたその時の気持ちなど経過した時に感じさせない語りで皆を惹きつけました。今も残るそれぞれの場所をめぐめながら、一所懸命だった部活動のことや人間関係についてなど、思い出を語り尽くしていました。かけがえの大事な時間への想いを伝えていただきました。



9月11日は、近くにある大牟田ちばな幼稚園 副園長の熊丸保さんと主任の栗原真美さん来ていただきました。かつては馬車を使って園児の送迎していたことなど地域の輪についてのお話を伺ったほか、卒園児が成長してふらりと立ち寄って顔を見せてくれるのがいつも嬉しいんですと語ってくれました。またエピソードの中では、これまでの人生の中で得た人の出会いやつながりの大切さを教えていただきました。



9月20日に話していただいたのは、橋中の現場で改修工事を進める卒業生の甲斐一輝さん。中学時代のさまざまなエピソードを校舎の写真を見ながら語っていました。勉強にはあまり積極的でなかったこと、打ち込んだ部活動のこと、仲間と語り合ったたくさんのタマリバのこと。生徒たちも熱心に聴き入っていました。



建築計画に関わる教育委員会学務課の八十島麻吏さん。橋中が今後どのように変わるべきか改修の計画を行い、活用の方法を探りました。



有明高専の正木哲先生、建築と空間、団棟などの話を通じて、自分の願う世界を生み出していくことが皆さんもできるということを伝えてくれました。



さまざまなゲストの話をもとに、いよいよタマリバを考えていきます。生徒それぞれが考える居場所のカタチは多様で、その目的もバラバラです。そこでグループに分かれ校内を探検することにしました。タブレットで写真を撮ったり、広さを測ったり。それらを持ち寄ってグループディスカッションを行います。

初めは上手くいかないグループが多く見られました。アイデアが浮かばない、イメージ図が上手く描けない、グループ内で意見が合わない、話すのが苦手、、などなど。そこに大人たちが関わってきます。OMUTA BRIDGEのメンバーは生徒が取り組みの主体であることに留意しながら、できる限りのアドバイスを行ったり、輪に入れないでいる生徒をコミュニケーションの輪に加えようと試行錯誤したり。一方で先生方もそれぞれのやり方で伴走していただき心強く感じます。

最終日の9月22日、午後のグループ発表に向けてプランをブラッシュアップさせます。前日はグループ内で意見が対立していたプランがそれぞれの良いところを組み合わせていたり、眼を見張る進捗を見せています。大きな模造紙に仕上げをすると、グループ発表の場である体育館へ！熱気漂う館内に、生徒たちの真剣な声が響きます。好きなもので囲まれたタマリバ、相反する目的を持った利用者が同時に安心できるタマリバ、地域住民に対して解放されたタマリバなど、興味深いプランの数々に大人たちも大興奮です。審査では、今回お話を伺ったゲストティーチャーをはじめ、校長先生、OMUTA BRIDGEメンバーも熱く応えました。

こうして今期のジュニアシティメーカーも、通常授業では得ることが難しい学びの場、実践の場を提供することができました。

生徒の感想より（一部抜粋）

Q.
自分の気持ちと
向き合うきっかけに
なった



Q.
活動を通して
地域の大人を身边に
感じた



Q.
他者と意見を交換し
ながら1つのものを作ることについて楽しかった、
興味がわいた



(63件の回答)

(子どもたちが安心して過ごせる居場所づくり)

オンライン 寺子屋

ONLINE
TERAKOYA



学校や家庭とは違う空間で、ゆっくり誰かとお話ししたり、新しい好きや楽しいに出会えたり、自分のペースで勉強したり…。誰もが立ち寄れる安心安全な場所です。寺子屋が開催されている時間は、大学生や大人と一緒に過ごしながら、関係性に縛られず過ごせる居場所をつくりあげています。

実施

毎週月曜日・木曜日
(祝日を除く)

対象

大牟田市内の中学生前後

時間

19:00~20:30

STAFF

専門職サポーター



松本 | 横尾
篠崎 | 秋田
井上

参加方法

まずはメールにてご相談や
お問い合わせをお願いします。
info@omutabridge.org



実績

2023年度の

87回実施

(子どもたち自身の生活力を高めるワークショップ)

PReIS (ぷれいす)

WORK SHOP
PReIS

実績 2023年度の



- 4月29日 タマリバ作り(裁縫、組み立て、家具の配置)
5月21日 タマリバ開所式・基地作り
6月24日 協活とホットサンド作り・トーキングサークル(タマリバ)
7月23日 協力ワーク・パフェ作り・ココロのワークショップ(タマリバ)
8月19日 創作時間・ココロのワークショップ(タマリバ)
9月24日 メイクアップ・ココロのワークショップ(タマリバ)
10月21日 マフィン作り・ココロのワークショップ(えるる)
11月25日 映画鑑賞・将来について(タマリバ)
12月23日 クリスマス会・ケーキ作り・対話の時間(タマリバ)
2024.1月28日 お雑煮とぜんざい作り・ココロのワークショップ(えるる)
2月23日 フォンダンショコラ作り・生活リズム作り(タマリバ)
3月16日 お花見・ココロのワークショップ(濃瀬山公園)

「P」ピア(仲間)、「R」レジリエンス(柔軟性)、「I」アイデア(発想)、「S」セルフエステーイーム(自己を受け入れる)の頭文字をとった「PReIS」は、自分の力に気づく×生きる力を高めることを目的とした、グループワーク活動を行っています。

STAFF

喜多下 七海



ぶれいすのスタッフとして活動に参加し、半年が経過しました。正直、最初は「どんな場所なのだろう。馴染めるかな。」と緊張していましたが、その気持ちはどこかに行ってしまうくらい、メンバーはあたたかく、優しく私を受け入れてくれました。活動中はみんなでゆっくり、のんびりしながらお互いの想いや近況を語り合います。話はなかなか尽きることなく、ついその日のメインイベントを忘れそうになることもしばしば…(笑)。お互いの話に共感したり、相手の意見を尊重しながら自分の意見を発信したりと、毎回とてもあたたかな空氣につづまれ、みんながほどよい距離感で繋がっています。活動中毎回驚かされるのは、メンバーのチームワークの良さです。特に料理をするときは、道具を用意する人、食材を切る人、道具を洗う人など自然と役割分担をして動いています。その姿をスタッフはほっこりした気持ちで見守っています。ぶれいすは「生きる力を高める心のワークショップ」ですが、まさにこれがみんなの「生きる力」だと思います。終わりに、活動中のメンバーからはたくさん前向きな言葉が出てきます。それと同じくらい「少し前の自分だったら(前向きな言葉が出てくるなんて)考えられない。」という言葉も出でます。ぶれいすがなんでも話すことのできる、安心の場になっていると実感できる瞬間です。これからもぶれいすという安心の場で、それぞれの想いを共有し語り合えたらと思っています。

他己紹介 (高口 ▶ なみみのイメージ)



喜多下さんは、2023年度から大牟田市のスクールソーシャルワーカーとしても活躍されています。子どもたちのことを第一に考え、前向きにチャレンジしていく姿に私たちも元気をもらっています。責任感が強くしっかり者、一方でチャーミングな一面もたくさん持ち合わせている彼女の柔らかさも魅力の一つです!ミッフィーが好きすぎて、いつか自分がミッフィーになることを夢見ていますので、その日が来るまで応援したいと思います(^^)

参加方法

クローズドのグループワークになります。
まずはメールにてご相談や
お問い合わせをお願いします。
info@omutabridge.org

